

## 平成22年度における食品健康影響評価技術研究の公募について

食品安全委員会では、科学を基本とする食品健康影響評価（リスク評価）の推進のため、平成17年度より、リスク評価ガイドライン、評価基準の開発に関する提案公募型の「食品健康影響評価技術研究」を実施しております。

つきましては、平成22年度食品健康影響評価技術研究応募要領（平成21年12月食品安全委員会事務局長決定。以下「応募要領」という。）第2の1に基づき、研究領域を設定するとともに、下記のとおり研究課題の募集を行います。

なお、この公募は、本来平成22年度予算が成立した後に行うべきものですが、同予算成立後速やかに委託研究を開始していただくために事前に公募を行うこととしているものです。このため、予算の成立状況によっては、種々の変更が生じ得ることを承知願います。

### 記

#### 1. 研究領域

別紙「平成22年度における食品健康影響評価技術研究の研究領域について」のとおり。

#### 2. 応募資格等

応募要領第1のとおり。

なお、応募要領につきましては食品安全委員会のホームページ及び府省共通研究管理システム（e-Rad）のポータルサイトからダウンロードすることができます

○食品安全委員会のホームページ(<http://www.fsc.go.jp/senmon/gijyutu/index.html>)

○府省共通研究開発管理システム（e-Rad）ポータルサイト(<http://www.e-rad.go.jp/>)

#### 3. 募集期間

平成22年1月5日（火）～平成22年1月28日（木）18：00【時間厳守】

#### 4. 研究課題の決定時期

4月上旬予定

#### 5. 応募の際の留意事項

- (1) 食品健康影響評価技術研究は、食品健康影響評価（リスク評価）の推進のための研究事業です。過去の応募課題の中には、公募している研究領域の趣旨に沿わないもの（リスク管理に関する研究等）が見受けられましたが、これらは採択の対象となりませんのでご注意ください。

なお、研究領域中の「キーワード」とは、重点的に成果を必要とする事項・分野を例示したものです。

- (2) 応募書類の作成に際しては、所定の様式を用いて下さい。また、様式の改変は認められません。記入する際は、記載例を参考とし、指定された文字数等を厳守願います。

なお、研究実施計画書様式5及び様式6により、発表論文リストを添付する場合は、主要なものを選定してください。

- (3) 研究費については、可能な限り詳細かつ具体的な積算をお願いします。なお、単年度あたりの研究費について、応募要領では1研究課題につき4千万円が上限となっておりますが、過去3年間（平成19～21年度）に採択された課題の研究費は、1研究課題につき650万円から2,700万円となっております。

# 平成２２年度食品健康影響評価技術研究領域

(平成２１年１２月１０日開催第３１３回食品安全委員会会合決定)

## I 食品中の化学物質等の健康影響評価手法に関する研究領域

- 胎児期、発達期の暴露による健康影響評価手法の開発  
(キーワード：in vivo、発達障害、中枢・末梢神経機能、発がん、生殖機能、代謝・内分泌調節機能、薬物代謝酵素)
- 低用量暴露における量影響関係・量反応関係による健康影響評価手法の開発  
(キーワード：低用量暴露、用量影響、用量反応)

## II 食品に起因するかび毒・自然毒、有害微生物等の健康影響評価手法に関する研究領域

- 食品及びその原材料における食中毒起因微生物等の生存、増殖の評価手法の開発  
(キーワード：食中毒、微生物、生存、増殖)
- 有害微生物等の特性解析と健康影響評価手法の開発  
(キーワード：動植物由来微生物、微生物の特性、測定法、疫学調査)

## III 新たな危害要因の予測や新しい健康影響評価手法に関する研究領域

- ナノテクノロジー利用食品・容器包装に関する健康影響評価手法の開発  
(キーワード：経口投与、動物実験、体内動態)
- 新たな危害要因の予測手法の開発  
(キーワード：トランス脂肪酸、グリシドール脂肪酸エステル、3-MCPD 脂肪酸エステル、分析法、体内動態、毒性)
- ベンチマークドーズ法等を活用した新しい健康影響評価手法の開発  
(キーワード：無毒性量の推定)
- ハイリスクグループ（高齢者、生活習慣病患者等）に対する健康影響評価手法に関する研究  
(キーワード：高齢者、生活習慣病、背景疾患、動物疾患モデル、疫学調査)

## IV リスクコミュニケーションの推進に関する研究領域

- リスクコミュニケーションの対象（地域性、年齢、職種等）を考慮した介入試験による効果分析手法の開発  
(キーワード：情報提供手法、専門家／市民間の認知ギャップ、表現形式、情報要求)
- リスク評価書の効果的なリスクコミュニケーション手法の開発  
(キーワード：サイエンスコミュニケーション)